

12月に「120周年記念祝賀会」

新たな発展を期す「校友会代議員会」開く



▲あいさつする甘竹会長

5月26日、神田キャンパスで平成19年度専修大学校友会代議員会が開かれた。全国の代議員153人(委任状412)が出席。今年120周年を迎える同会の発展を目指し、議論を交わした。

甘竹秀雄会長はあいさつの中で「昨年度はホームカミングデーの開催や4支部の新設により、全都道府県に支部が設立されるなど、実り多き年となりました。今年度も校友会奨学生制度の新設、定時総会の京都開催といった新たな試みのほか、12月には120周年記念祝賀会を予定しています。より一層のご理解とご協力をお願いします」と述べた。

議事では、第1号議案「平成18年度事業・決算報告・監査報告」、第2号議案「平成19年度事業計画(案)・同収支予算(案)」、第3号議案「専修大学校友会奨学生規定(案)・規定細則(案)」を承認した。

※詳細は校友会情報誌「Adonis 40号」(7月発行予定)をご覧ください。

統一地方選挙当選者

6月15日現在判明分(敬称略)

【県議会議員】

山梨 武川 勉 昭45商

埼玉 土屋恵一 昭52商

【市議会議員】

旭川 塩尻伸司 昭44商

浦安 西川嘉純 平11経営

春の褒章

5月31日現在判明分

◇旭日双光章

富沢 実氏(とみざわ・みのる=昭25経学)

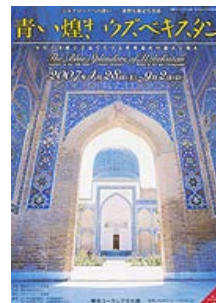
竹内 重雄氏(たけうち・しげお=昭31商経)

◇瑞宝双光章

山田 徇孝氏(やまだ・よしのり=昭30商経)

「青い煌き ウズベキスタン」 — 萩野矢慶記さん 横浜ユーラシア文化館で写真展開催中

旅行写真家の萩野矢慶記さん(昭36商経)の写真展「青い煌き ウズベキスタン シルクロードへの誘い」が9月2日まで(毎週月曜休館)横浜ユーラシア文化館で開かれている。中央アジアの自然や、世界遺産に登録された青の都・サマルカンドをはじめとしたオリジナル写真約70点とウズベキスタンの美術工芸品の数々を展示。観覧料は500円(小・中学生は250円)。7月7日(土)、9月1日(土)には萩野矢さんのギャラリートークも行われる予定。



◀校友短信▶

「講談社出版文化賞・写真賞」小林伸一郎さんが受賞

写真家の小林伸一郎さん(昭55経済)が平成19年度講談社出版文化賞の写真賞を受賞、5月24日、ホテル・ニューオータニで贈呈式が行われた=写真。受賞対象作品は写真集「亡骸劇場」と「東京ディズニーシー」(いずれも講談社刊)。

受賞を記念して6月27日から7月3日までコダックフォトサロンギャラリー1(東京銀座・東海堂銀座ビル3F)で写真展が開かれる。



◀校友の本紹介▶

06年3月に本学で博士の学位を取得した皆さんの博士論文が刊行された。いずれも専修大学課程博士論文刊行助成を受けたもので、出版社は専修大学出版局。

日本企業の組織行動研究
企業成長の組織的課題

著者・孟勇(モウ・ユウ)＝博士(経済学)



未遂処罰の理論的構造

著者・森住信人(もりずみ・のぶひと)＝博士(法学)



低出生体重児の母親に対する臨床心理学的研究

著者・井上美鈴(いのうえ・みすず)＝博士(心理学)

※本書の一部は平成11年度安田生命事業団研究助成金の援助を受けている。



村上 龍 作家作品研究
村上龍の世界地図

著者・南雄太(みなみ・ゆうた)＝博士(文学)



大江健三郎論
「狂気」と「救済」を軸にして

著者・クラウドプロック・ウォララック＝博士(文学)



銀行管理会計

著者・谷守正行(たにもり・まさゆき)＝博士(経営学)



経営目的からみる小零細小売業の課題

著者・李東勲(イ・ドンフン)＝博士(経営学)



樋口 一葉
作品研究

著者・趙恵淑(チョ・ヘスク)＝博士(文学)



◀専大校友を訪ねて▶

犬にも個性“教育”は人間と同じです

— 社会福祉法人「全国介助犬協会」介助犬トレーナー
桑原亜矢子(くわはらあやこ)さん(平10経済)

身体の不自由な人の暮らしを支える介助犬。その育成、普及を担う社会福祉法人「全国介助犬協会」(東京・八王子市)でトレーナーを務める。全国で認定されている介助犬37頭あまりのうち14頭が同会に所属する。

介助される人が手の届かないものを持ってきてくれる、衣服を脱ぐのを手伝ってくれる、起立や車椅子での移動を助けるなど、介助犬は障がい者の手足になると共に、心を癒す良きパートナーにもなる。02年の身体障害者補助犬法の施行で「働く犬」として市民権を得て、施設や店舗への出入りが認められるようになった。しかし日本では育成が始まって15年と歴史が浅く、1000頭近くが活躍する盲導犬に比べ、社会的認知度は低い。

「まず、存在を多くの人に知ってもらいたい」。月に一度の見学会、首都圏を中心に開くPRイベントや講演に駆け回る。

「動物と一緒にだと、自然と笑顔がこぼれるんです」。動物園で働くか、イルカの調教師が子供のころの夢だった。

「良き友人を得て、生きる道を見つけたい」と心に決めた専大時代。ラクロス愛好会で仲間たちと汗を流し、社会保障をテーマにした西岡幸泰ゼミでは、障がい者と共生する地域コミュニティーに興味を持った。卒業後、キヤノンの関連会社に勤めたが、「人と動物にかかわる仕事をしたい」一心で、ボランティアを経て5年前から現職に。

今後は障がい者福祉やリハビリテーション、犬の行動学の知識を増やし、1万5千人ともいわれる介助犬対象者の要望に少しでも近づきたいと思う。

昨秋結婚、7月には母親になる。

介助犬を育てるポイントは？「犬にも個性がありますから教え方は千差万別。良いところを見つけて引き出してあげること。愛情いっぱい育てること。人間と同じですね」。

全国介助犬協会 <http://www.s-dog.jp/>

